

1. 略歴

- 1991年3月 東京大学文学部第二類（史学）美術史学専修課程卒業、文学士
1994年3月 東京大学大学院人文科学研究科美術史学専攻修士課程修了、修士（文学）
1998年12月 在アテネ イタリア国立考古学研究所専門課程修了、ディプローマ（ギリシア・ローマ考古学）
2000年3月 東京大学大学院人文社会系研究科美術史学専攻博士課程単位取得退学
2001年4月 日本学術振興会特別研究員（PD）（～2004年3月）
2002年5月 東京大学大学院人文社会系研究科美術史学専攻博士課程修了、博士（文学）
2005年9月 独立行政法人国立美術館国立西洋美術館学芸課リサーチフェロー（～2006年7月）
2006年8月 東北大学大学院文学研究科 助教授
2007年4月 同上 准教授
2017年4月 同上 教授
2018年4月 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

2. 主な研究活動

a 主要業績

(1) 単著

『ロドス島の古代彫刻』（中央公論美術出版，697頁）2006年2月

(2) 共編著等

『古代ローマ帝国の遺産 栄光の都ローマと悲劇の街ポンペイ』（青柳正規・芳賀京子図録監修）（展覧会図録，国立西洋美術館，2009年9月19日～12月13日，東京新聞）2009年9月

『都市を描く——東西文化にみる地図と景観図』（佐々木千佳・芳賀京子共編，東北大学出版会，265頁，1-30,247-250頁担当）2010年4月

『大英博物館 古代ギリシャ展 究極の身体，完全なる美』（日本語版図録監修）（展覧会図録，国立西洋美術館，2011年7月5日～9月25日，朝日新聞社／NHK／NHKプロモーション）2011年3月

『日伊国交樹立150周年記念 世界遺産 ポンペイの壁画展』（日本側図録責任編集）（展覧会図録，森アーツセンターギャラリー，2016年4月29日～7月3日，東京新聞社／中日新聞社／TBS）2016年4月

『特別展 古代ギリシャ——時空を超えた旅』（展覧会・図録監修）（展覧会図録，東京国立博物館，2016年6月21日～9月19日，朝日新聞社／NHK／NHKプロモーション／東映）2016年6月

『西洋美術の歴史Ⅰ：古代』（芳賀京子・芳賀満共著，中央公論新社，660頁，19-502頁担当）2017年1月

(3) 学術論文

「パスクイーン群像——その成立年代と意味」『美術史』141冊，78-91頁）1996年10月

“A Portrait Head of a Boy found at the Roman Villa at Cazzanello”（『文化交流研究』，東京大学文学部文化交流研究室紀要，第16号，81-85頁）2000年3月

「古代ローマの彫刻コレクション——アシニウス・ポリオの「モヌメンタ」」（『西洋美術研究』No.8，21-38頁）2002年11月

「紀元前四世紀のギリシアの彫刻家たちの同時代的評価——レオカレス，スコパス，ティモテオス，ブリュアクシス」（『美術史』154冊，277-290頁）2003年3月

「共和政期のローマにおけるギリシア人彫刻家とローマ人注文主——オクタウィアの柱廊周辺の三つの神殿の場合」（『地中海学研究』，XXVI，3-26頁）2003年5月

「コピー作品における彫刻家の独創と注文主の創意——アルカメネス作のヘルマ柱の場合」（『西洋美術研究』No.11，12-28頁）2004年9月

“The four sculptors and the main façade of the Mausoleum at Halikarnassus”（*Silk Road Art and Archaeology*, 10, pp. 1-28, 英訳）2004年10月

「古代ローマ世界の「マント式ヘルマ柱」——ローマ人によるギリシア美術のパトロネージ」（『鹿島美術研究年報』，23号，71-80頁）2006年11月

「越境するアテナイ人彫刻家」（『西洋美術研究』，No.14，12-32頁）2008年9月

「フェイディアス作《アテナ・パルテノス》(一)——賦与された機能と知覚される神性」(『美術史学』, 東北大学美術史学講座紀要, 29号, 143-164頁) 2009年3月

“Sculture greche nel mondo romano: statue profane e statue divine” (*L’eredità dell’impero romano*, catalogo della mostra, The National Museum of Western Art, 19 settembre 2009 - 13 dicembre 2010, Tokyo, pp. 35-39, 伊訳) 2009年9月

“Due statue marmoree da Somma Vesuviana: Dioniso e la Peplophoros,” (Kyoko Sengoku-Haga, Masanori Aoyagi 共著, *Amoenitas*, 1, 237-252頁) 2010年2月

“Le Peplophoroi dalla Villa dei Papiri e le misurazione tridimensionali” (*Vesuvio: Il Grand Tour dell’Accademia Ercolanese. Dal passato al futuro. Atti del Convegno Internazionale, Facoltà di Agraria dell’Università degli Studi di Napoli Federico II, Portici 21 e 22 maggio 2010*, A. De Rosa ed., Napoli: Arte tipografica editrice, 93-100頁) 2010年5月

古代ギリシア・ローマの横たわる裸婦」(『ヴィーナス・メタモルフォーシス——国立西洋美術館「ウルビーノのヴィーナス展」講演録』, 三元社, 13-68頁) 2010年10月

「美術にみる古代ギリシア人の生と死」(正村俊之編『生と死への問い』, 人文社会科学講演シリーズV, 東北大学出版会, 1-52頁) 2011年1月

「フェイディアス作《アテナ・パルテノス》(二)——非ギリシア人の知覚する美と神性」(『美術史学』, 東北大学美術史学講座紀要, 31/32号, 55-78頁) 2011年3月

「《ディオニュソス》と《ペプロフォロス》——ソンマ・ヴェスヴィアーナ出土の二体の大理石像」(芳賀京子・青柳正規共著, 『美術史学』, 東北大学美術史学講座紀要, 33号, 91-108頁, 和訳) 2012年3月

「豊饒の角を持つヘラクレス」(『美術史学』, 東北大学美術史学講座紀要, 34号, 61-78頁) 2013年3月

“Classical Sculpture Analysis via Shape Comparison” (Y. Zhang, M. Lu, B. Zheng, T. Masuda, S. Ono, T. Oishi, K. Sengoku-Haga, K. Ikeuchi 共著, *Culture and Computing 2013*, Kyoto, Sep. 16-18, 2013, 57-61頁) 2013年9月

“Portrait Sculptures of Augustus: Categorization via Local Shape Comparison” (M. Lu, Y. Zhang, B. Zheng, T. Masuda, S. Ono, T. Oishi, K. Sengoku-Haga, K. Ikeuchi 共著, *2013 International Congress on Digital Heritage*, Marseille, Oct 28-Nov 1, 2013, 661-664頁) 2013年10月

「アゴラクリトス作《ラムヌスのネメシス》——台座浮彫の解釈と神像の意味」(『西洋古典学研究』, LXII, 1-12頁) 2014年3月

„Archäologische Sehschule 2.0“ (I. Kader, K. Sengoku-Haga, Ch. Anthes, K. Ikeuchi 共著, *Akademie Aktuell. Bayerische Akademie der Wissenschaften*, 2015, 2, 72-77頁) 2015年5月

“Japan’s impassioned gaze on Greek art” (S. Settis & A. Anguissola eds., *Serial/Portable Classic*, Exh.Cat. Milan, Ca’ Corner della Regina, 9 May-24 Aug. 2015 & Venice, 9 May-13 Sep. 2015. Milan: Prada Foundation, 193-197頁) 2015年5月

“Polykleitos’ works ‘from one model’: New evidence obtained from the 3D digital shape comparisons” (K. Sengoku-Haga, Y. Zhang, M. Lu, S. Ono, T. Oishi, T. Masuda, K. Ikeuchi 共著, A. Patay-Horváth ed., *New Approaches to the Temple of Zeus at Olympia, Proceedings of the First Olympia-Seminar, 8th-10th May 2014*, Newcastle upon Tyne: Cambridge Scholars Publishing, 201-222頁) 2015年9月

“‘Works of Art’ of Ancient Greece: the difficult balance between religion and art” (*A Journey to the Land of Immortals: Treasures of Ancient Greece*, Tokyo: Tokyo National Museum, Asahi Shimbun, 18-25頁) 2016年6月

“Polykleitos and his followers at work: how the Doryphoros was used” (K. Sengoku-Haga, S. Buseki, M. Lu, S. Ono, T. Oishi, T. Masuda, K. Ikeuchi 共著, *Artistry in Bronze: The Greeks and their Legacy*, Los Angeles: The Paul Getty Trust, 87-93頁) 2017年11月

(4) 書評

書評: R. Brilliant, *Gesture and Rank in Roman Art* (『西洋美術研究』, No. 5, 160-163頁) 2001年3月

書評: S. Settis, *Laocoonte. Fama e stile* (『西洋美術研究』, No. 7, 151-158頁) 2002年5月

「美術作品を読み解く上での「ルール」とは——書評, サルヴァトーレ・セッティス著『絵画の発明 ジョルジョーネ「嵐」解説』(『雲母』, 京都造形芸術大学通信教育部誌, 51-52頁) 2003年5月

書評: A. Stewart, *Attalos, Athens, and the Akropolis: The Pergamene ‘Little Barbarians’ and their Roman and Renaissance Legacy* (『西洋古典学研究』, LV, 164-166頁) 2007年3月

書評: 水田徹著『パルテノン・フリーズ 観察と考察』(『地中海学研究』, XXXV, 193-197頁) 2012年5月

書評: Carol C. Mattusch, *Enduring Bronze: Ancient Art, Modern Views* (『西洋古典学研究』, LXIV, 145-147頁) 2016年3月

(5) 解説, 事典項目ほか

用語解説「アクロポリス」ほか計35項目(高階秀爾監修『カラー版西洋美術史(増補新装)』, 美術出版社, 228-243頁) 2002年12月

- 作品解説「ブシュケテル（ディオニュソス神の饗宴）」ほか計13作品（『アレクサンドロス大王と東西文明の交流展』、
展覧会図録、東京国立博物館、2003年8月5日～10月5日、NHK/NHKプロモーション、nos. 5, 8, 26, 42, 44, 46, 54-55,
57, 64-66, 91）2003年8月
- 「ソンマ・ヴェスヴィアーナ出土の2体の大理石像」（『ディオニュソスとペプロフォロス——東京大学ソンマ・ヴェ
スヴィアーナ発掘調査の一成果』、展覧会リーフレット、東京大学総合研究博物館、平成17年10月15日～11月
13日）2005年10月
- 「作品の記述と作品を見る目（古代ギリシア・ローマ）」（『雲母』、京都造形芸術大学通信教育部補助教材、61-64頁）
2006年8月
- 章解説「ギリシア・ローマの美術」、および作品解説計24点（『Archaic Smile ほほえみの考古学展』、展覧会図録、
古代オリエント博物館、2007年3月17日～7月1日ほか、東京新聞、16-17頁、124-130頁）2007年3月
- 「ギリシアのアルカイック美術」（『オリエンテ』、古代オリエント博物館情報誌、No. 35、7-10頁）2007年7月
- 「夜の女王とフクロウ」（『Herend Owl Club 通信』、ヘレンドふくろうクラブ会報、No. 5、1-2頁）2007年12月
- 「ギリシア、アルカイック美術の魅力」（『學燈』、丸善PR誌、第105巻第2号、18-21頁）2008年6月
- 「ギリシアのヘレニズム美術——グローバル美術の誕生」（『ヘレニズムの華 ペルガモンとシルクロード』、展覧会
図録、岡山市立オリエント美術館、2008年9月6日～11月3日ほか、中近東文化センター附属博物館、31-39頁）
2008年9月
- 事典項目「エトルリア美術」「マグナ・グラエキアの美術」「古代ローマの美術」（イタリア文化事典編集委員会編『イ
タリア文化事典』、丸善出版株式会社）2011年11月
- 「古代彫刻への新旧のアプローチ」（『遺跡学研究』、日本遺跡学会誌、第8号、160-163頁）2011年11月
- 「西洋古代における死とその表象」（『東北文化研究室紀要』、通巻第54集別冊、96-98頁）2013年3月
- 『美の起源、古代ギリシア・ローマ』（編著）（ペン・ブックス22、阪急コミュニケーションズ、24-29, 42-45, 50-55頁
担当）2014年7月
- 「西洋古代における死とその表象」（『東北文化研究室紀要』54、別冊、96-98頁）2013年3月
- 座談会「スペクタクルをめぐって」（秋山聰＋木下直之＋芳賀京子＋古谷嘉章＋京谷啓徳（司会）『西洋
美術研究』18号、8-36頁）2014年12月
- (6) 発掘報告
- “Preliminary Report of the Excavation 1998 of Roman Villa at Cazzanello, Tarquinia. Finds. (9) Sculpture in Marble”（『文化交流
研究』、東京大学文学部文化交流研究室紀要、第15号、52-53頁）1999年3月
- “Preliminary Report of the Excavation 1999 of Roman Villa at Cazzanello, Tarquinia. Finds. (9) Sculpture in Marble”（『文化交流
研究』、東京大学文学部文化交流研究室紀要、第16号、57頁）2000年3月
- “VRC01 Preliminary Report. 3. Finds. (10) Marble Sculpture”（『文化交流研究』、東京大学文学部次世代人文学開発センタ
ー研究紀要、第18号、78-79頁）2005年3月
- “VRC02-04 Preliminary Report. Finds. Sculpture”（『文化交流研究』、東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀
要、第19号、92-94頁）2005年3月
- (7) 翻訳
- アントニーノ・ディ・ヴィータ「レプティス・マグナ」（『古代イタリア歴史・考古学セミナー論集5 ローマ帝国と
その属州』、54-62頁）1993年12月
- 「原典資料紹介：パレルゴンをめぐる言説——プリニウスからデリダまで」（『西洋美術研究』No.9、161-165頁（伊
藤拓真・栗田秀法・三浦篤と共訳、161頁担当）2003年5月
- ヤニス・ツェダキス／サッフォー・アタナソプル「歴史の征服者アレクサンドロス大王」、および作品解説計39点（『ア
レクサンドロス大王と東西文明の交流展』、展覧会図録、東京国立博物館、2003年8月5日～10月5日、NHK/
NHKプロモーション、186-189頁、nos. 1-4, 7, 9-13, 19, 21-23, 26, 32-41, 43, 45, 47-48, 50-53, 56, 58-63, 91）2003年8
月
- サルヴァトーレ・セッティス「ラオコーンの変容」（『美術史論叢』、東京大学文学部美術史学科研究室紀要、20号、
188-165頁）2004年2月
- 「原典資料紹介：古代における複製とオリジナルの意義」（訳は芳賀京子、解題は小佐野重利・芳賀京子共著、『西洋
美術研究』、No. 11、126-131頁）2004年9月

アンドレアス・ショル「ギリシャ・ローマ美術」、ベルント・クルーゲ「コイン・コレクション」、ガブリエーレ・ミー
トク「ピザンチン美術」、および作品解説 計61点 (『世界遺産・博物館島 ベルリンの至宝展——よみがえる美の
聖域』, 展覧会図録, 東京国立博物館, 平成17年4月5日~6月12日, 朝日新聞社/TBS/東映, 92, 128, 142頁,
nos. 51-72, nos. 84-121) 2005年4月

サルヴァトーレ・セッティス『ラオコーン——様式と名声』(芳賀京子・日向太郎共訳)(三元社, 1-121頁, 267-313
頁) 2006年8月

ルチア・ピルツィオ・ビローリ・ステファネッリ「ローマの宝石彫刻——18世紀から19世紀の興隆」(『カメオ展 宝
石彫刻の2000年~アレキサンダー大王からナポレオン3世まで~』, 展覧会図録, 2008年9月6日~10月26日,
箱根彫刻の森美術館ほか, 産経新聞社, 20-24頁) 2008年9月

パウル・ツァンカー「ローマ帝政期の墓における市民の自己表現」(芳賀京子・尾関幸共訳, 小佐野重利・木下直之編
『死生学4 死と死後をめぐるイメージと文化』, 東京大学出版会, 43-75頁) 2008年9月

バンジャマン・クイヨ「古代の宗教と神話のなかの子ども」, アンヌ・クリエ「古代ギリシャの子どもたちの表現」,
および作品解説 計25点 (『ルーヴル美術館展 美の宮殿の子どもたち』, 展覧会図録, 2009年3月25日~6月1
日, 国立新美術館, 朝日新聞社, 137頁, 212-214頁, nos. 9, 12-14, 29, 33-37, 42, 55, 57, 58, 80, 81, 89, 99, 161-167) 2009
年3月

サルヴァトーレ・セッティス「博物美術史を求めて——アメリカインディアン・ルネサンスとアビ・ヴァールブルク
の出会い(一八九五年)——」(フォンガロ・エンリコ, 芳賀京子監訳, 河西宏紀, 瀬戸はるか, 武関彩瑛, 郭磊,
河野奈津美訳, 『美術史学』, 東北大学美術史学講座紀要, 39号, 165-185頁) 2018年3月

(8) 研究発表等

「バスクイノ群像——その成立年代と意味」(美術史学会東支部例会, 東京大学, 1994年6月)

「ハリカルナソスのマウソレイオンの彫刻家たち」(第9回ヘレニズム~イスラーム考古学研究会, 金沢大学, 2002
年7月7日)

「シリア、ダフネの黄金のアポロン像」(第10回ヘレニズム~イスラーム考古学研究会, 金沢大学, 2003年7月5日)

「ロドス島の彫刻活動」(地中海学会研究会, 東京大学, 2006年12月9日)

「古代の人々の神像へのまなざし」(第19回美学会東部会例会, 宮城県美術館, 2007年11月24日)

「古代ローマの「マント式ヘルマ柱」——ローマ人によるギリシア美術のパロネージ」(鹿島美術財団研究発表会,
鹿島K1ビル, 2007年5月11日)

「2003年出土の2体の大理石像:《ディオニュソス》と《ペプロフォロス》」(国際シンポジウム「火山噴火罹災地の
文化・自然環境復元——ソンマ・ヴェスヴィアーナ, 指宿, ピナツボ, 浅間 戦略的学融合研究2007」, 東京大学,
2008年2月11日)

「古代カンパニア地方の2つの彫刻工房——彫刻家ステファノスを3次元計測でつかまえる」 芳賀京子, 鎌倉真央,
池内克史(国際シンポジウム「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元——ソンマ・ヴェスヴィアーナ, 指宿, ピナ
ツボ, 浅間 戦略的学融合研究2008」東京大学, 2009年2月11日)

「西洋古代における都市景観図の成立」(平成18年度若手研究者萌芽研究育成プログラム(ERYS)「地図と都市景観
図にみる異文化受容の様相——15世紀から17世紀におけるアジアとヨーロッパの出会い」第5回定期発表会, 東
北大学, 2009年6月13日)

「出土彫刻——ディオニュソスとその眷属たち」(国際シンポジウム「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元——ソ
ンマ・ヴェスヴィアーナ, 指宿, ピナツボ, 浅間 戦略的学融合研究2009」, 東京大学, 2010年2月11日)

「神像と神性——《アテナ・パルテノス》の場合」(公開シンポジウム「パルテノン神殿と祭神のイメージ——古代ギ
リシアの宗教観を問う試み」筑波大学, 2010年3月20日)

“Le Peplophoroi dalla Villa dei Papiri e la misurazione tridimensionale” (国際シンポジウム Vesuvio: “Il Grand Tour
dell'Accademia Ercolanese” : Dal passato al futuro, ナポリ (イタリア), 2010年5月21日)

「西洋古代における死とその表象」(東北文化研究会公開講演会「表象としての身体——死の分化の諸相」, 東北大学,
2012年11月24日)

“3D Analysis of Classical Sculpture” (Internationaler Museumstag am Leibniz-Rechenzentrum, ミュンヘン (ドイツ), 2013
年5月12日)

「アゴラクリトス作《ラムヌスのネメシス》」(第64回日本西洋古典学会大会, 東京大学, 2013年6月1日)

「神像を見る/神像が見守る——古代アテナイの場合」(空間史学研究会, 東北大学, 2013年8月1日)

“Classical Sculpture Analysis via Shape Comparison” , Yujin Zhang, Min Lu, Bo Zheng, Takeshi Masuda, Shintaro Ono, Takeshi
Oishi, Kyoko Sengoku-Haga and Katsushi Ikeuchi (国際シンポジウム International Conference on Culture and Computing

2013, 立命館大学, 2013年9月17日)

“Portrait Sculptures of Augustus: Categorization via Local Shape Comparison”, Min Lu, Yujin Zhang, Bo Zheng, Takeshi Masuda, Shintaro Ono, Takeshi Oishi, Kyoko Sengoku-Haga, and Katsushi Ikeuchi (国際学会 Digital Heritage 2013, マルセイユ (フランス), 2013年10月28日)

“Categorization of Portrait Sculptures of Augustus via Local Shape Comparison”, M. Lu, Y. Zhang, B. Zheng, T. Masuda, S. Ono, T. Oishi, K. Sengoku-Haga, K. Ikeuchi (国際ワークショップ The 8th International Workshop on Robust Computer Vision, デジョン (韓国), 2014年1月12日)

“Kopienkritik of Classical Sculpture via 3D Digital Form Comparisons: The Case of Polykleitos”, K. Sengoku-Haga, Y. Zhang, M. Lu, S. Ono, T. Oishi, T. Masuda, K. Ikeuchi (国際学会 Computer Applications and Quantitative Methods in Archaeology 2014, パリ (フランス), 2014年4月24日)

“Polykleitos' Works 'From One Model': New Evidence Obtained From the 3D Digital Form Comparisons”, K. Sengoku-Haga, Y. Zhang, M. Lu, S. Ono, T. Oishi, T. Masuda, K. Ikeuchi (国際シンポジウム New Approaches to the Temple of Zeus at Olympia, ブダペスト (ハンガリー), 2014年5月9日)

“Signature in the Shape: 3D Shape Analysis of Ancient Greek Sculptures” (国際ワークショップ 3rd ACCV Workshop on e-Heritage, シンガポール, 2014年11月1日)

「ソンマ・ヴェスヴィアーナ出土の大理石彫刻 (2014年):《ウェヌス・プディカ》(「火山噴火罹災地の文化・自然環境復元——ソンマ・ヴェスヴィアーナ 学融合研究 2013/2014」, 東京大学, 2015年2月21日)

“The Doryphoros Herm by Apollonios and the so-called Dancers of Herculaneum: Use of Plastice in Sculptors Workshop” (国際コロキウム OUT OF SCALE! Aesthetic, Technical, and Art Historical Perspectives on Ancient Bronze Statuary, フィレンツェ (イタリア), 2015年3月21日)

「ギリシア彫刻のつくりかた——3Dデータで明らかになる古代彫刻工房の実態」(第38回日本ライセンス協会年次大会講演, ウェスティンホテル仙台, 2015年7月3日)

“Polykleitos at Work: How the Doryphoros was used”, K. Sengoku-Haga, S. Buseki, M. Lu, S. Ono, T. Oishi, T. Masuda, K. Ikeuchi (国際学会 XIX International Congress on Ancient Bronzes, ロサンゼルス (米国), 2015年10月16日)

“Cyber-Archaeology of Greek and Roman Sculpture” (Microsoft Research Japan Korea Academic Day, 日本マイクロソフト品川オフィス, 2016年5月20日)

「宮廷芸術家の始まり? ——アレクサンドロスとヘレニズム君主の宮廷」(美術史学会東支部大会, クラーナハ展記念ワークショップ「宮廷芸術家」, 国立西洋美術館, 2016年12月16日)

「古代ギリシア・ローマの彫刻家たち——3D技術で明らかになる制作の実態」(日本実装技術振興協会, 第184回高密度実装技術部会定例会, 東京工業大学, 2017年5月18日)

「イメージという知の伝達——ローマ皇帝の肖像の複製と拡散」(第67回日本西洋史学会大会 小シンポジウム2「古代地中海世界における知の伝達の諸形態」, 一橋大学, 2017年5月21日)

「古代美術の選択的受容——受容されなかった古代」(共同研究「古代美術受容と国家美術史の形成」研究会, 名古屋大学, 2018年1月27日)

(9) 受賞

2007年5月 鹿島美術財団賞 (第14回)

2007年6月 地中海学会ヘレンド賞 (第12回)

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

愛知大学文学部 (2000年4月~2006年9月)

京都造形大学通信教育部 (2002年4月~2006年9月)

東京大学文学部・大学院人文社会系研究科 (2003年4月~2004年3月, 2006年3月~9月, 2014年9月~2015年3月)

大阪成蹊大学芸術学部 (2004年4月~2006年9月)

大阪大学文学部・大学院文学研究科 (2007年4月~9月)

放送大学宮城教育センター (2012年4月~6月, 2016年4月~6月)

(2) 学会等

美術史学会、常任委員、2014年5月~